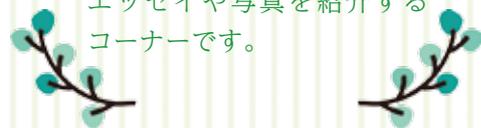


わたしの

いなべ暮らし

皆さんから応募いただいた
エッセイや写真を紹介する
コーナーです。



◀はじめてのいなべ公園
(大安町 鈴木智裕 28)



僕のまち散歩▶
(北勢町 川瀬恵里香 34)

母のさるわじ

私の母の実家は、藤原音頭にも歌われている深尾の里です。今は、ダムの底に沈み、訪れることはできません。

幼い頃、母に連れられ、古田までバスで行き、そこから歩いて季節季節のヤマグリ・イタドリ・ユスラウメをほおばりながら頂上へ。見下ろせば眼下には、だんだんに建てられた深尾の集落が。60年たった今でも鮮

明に憶えています。

8人居た母の兄弟も、今は名古屋に住む叔母が1人。叔母は「一番末っ子だから仕方ないけど、寂しい」と言っています。電話の向こうで涙します。「子どもにも良くしてもらっていても寂しい」と。

私も年を重ねた今、走馬灯のようにぐるぐると思い出が駆け巡っています。
(藤原町 藤田みゆき 68)

ノンフィクション

12月某日。雪の降り積もる朝。私は見事に自転車で転んだ。カゴは歪み、足は血だらけ。なんてこったと立ち尽くす私の横に1台の車が止まった。

「大丈夫？歩ける？」
私が勝手に転んだだけなので大丈夫ですと礼を言い、車が走り去ると次から次へと「大丈夫？」「これで血拭きな」「はい、こればんそうこう。使いな」と声を掛けられた。なんでこんなに優し

い人たちがばかりなん。少しの恥ずかしさと、地域の方々の温かさに包まれて、私の目頭は熱くなって視界がぼやけた。

こんな出来事の後から私はいなべ市の役に立ちたい、この温かさを伝えたい、と思うようになった。
今、この文を読んでいるあなたへ、少しくらいは「いなべのよさ」を伝えられたらどうか。
(北勢町 伊藤鈴 17)

募集

いなべでの暮らしの中で感じたことなどを300字程度にまとめて、タイトル、住所、氏名、年齢、電話番号またはメールアドレス、Linkの感想を明記した上、郵送または市ホームページから送りください。※趣旨を変更しない範囲の校正(漢字の表記など)を行います。
応募方法：郵送または市ホームページ「わたしのいなべ暮らし」応募フォームから
送り先：〒511-0498 北勢町阿下喜 31 いなべ市役所広報秘書課「わたしのいなべ暮らし」係

応募フォーム▶



写真用応募フォーム▶



生活情報
「まいめる」



携帯用
「モバイルサイト」

救急医療情報

- 三重県救急医療情報センター ☎ 059-229-1199
- いなべ医師会(在宅当番医) 📄 <http://inabe-med.or.jp/>
- 医療ネットみえ 📄 <https://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

人口情報(令和3年9月1日現在)

総人口：45,118 (-51)
世帯：18,773 (-5)
男：23,104 (-29) 女：22,014 (-22)

いなべ市情報誌 Link11月号(vol.215) 令和3年10月1日発行
発行/いなべ市 編集/企画部 広報秘書課 〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜 31
☎ 0594-86-7740 📠 0594-86-7857 📄 <https://www.city.inabe.mie.jp/>

